



信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

# 信州ESD通信

No. 30

2019.12.10

信州ESD  
コンソーシアム  
事務局

目次：地域づくり推進研修会/ESD視察/ESDダイアログ/山ノ内町子ども議会/ユネスコスクール全国大会

## 11月6日 地域づくり推進研修にて事例発表を行いました

長野県生涯学習推進センターと長野県総合教育センター主催の、地域づくり推進研修「持続可能な社会づくりに向けた教育の新しい在り方」が、長野県生涯学習推進センターにて行われました。学校関係者から行政職員、地域で活動する諸団体の職員等、ESDに関心を持つ多様な参加者が約60名集まりESDに関する研修を受けました。午前中は湊川短期大学学長の末本誠氏による講義があり、午後からは「ユネスコスクールを中心としたESD/SDGsの広がり」と題して、長野県のユネスコスクールに関する現状と信州ESDコンソーシアムについて安達が講義を行いました。その後、事例発表として信大附属松本中学校の生徒たちと文化学園長野中学校・高等学校の長田先生による実践報告がありました。来年度も10月ごろに同様の講座が開催される予定となっています。少しずつESDの輪が長野県内に広がっていることを実感しています。



(安達仁美)

## 11月13日 白山市校長会が山ノ内町ユネスコスクールの視察にみえました



石川県白山市から4名の校長先生が、ユネスコスクール活動の参考にしたいと、山ノ内町の2小学校に視察に訪れた。午前中に訪問した西小学校では、地域住民との交流活動「ふれあいルーム」の時間に、1年生の羊や烏骨鶏の世話、4年生のヤギの餌やりなどを見学した。その後の授業参観では、3年生のリンゴの販売に向けたALTとの英語学習、6年生の高社山の岩石を教材とした学習などを参観した。西小学校の塩原校長は、「本校におけるESD」として、2年生の「ヤギの飼育」がSDGsの様々な学習に繋がって深い学びになっていることを紹介された。午後の南小学校では

6年生が来週の「子ども議会」で町長や議員に10分で町への提案をおこなう予行演習を見学した。「これからも残したい大切な場所 夜間瀬川」として、地域の見学から川遊びの楽しさを大切な価値として発見した子ども達は、幼児から大人、高齢者まで親しめる形で夜間瀬川を生かしていきたいと具体的に提案していた。5年生は東京都の小学校との交流のテーマとしてどんな地域の特色を紹介しようか、温泉はどうだろうかなどと討論をしていた。視察後の両校との懇談では、総合の時間で「子どもたちの主体的な参画にもとづくテーマ設定」を徹底したことが主体的で深い学びに繋がっていたことがわかった、石川県では学力とともにSDGsも柱となっているので、地域の自然を生かした学びを生かすうえで大いに参考になったなどの感想があった。

(渡辺隆一)

## 11月16日 ESD推進のためのダイアログが飯田で開催されました

「ユネスコエコパークを活かしたESDによる地域創生」をテーマとした「ESD推進のためのダイアログ」(主催：中部地方ESD活動支援センター、共催：信州ESDコンソーシアム)が飯田市役所で開催され、南アルプスユネス



コエコパーク(BR)に登録されている飯田市をはじめ、各地のBRで活動する教育関係者など32名が集い、BRを活かしたESD、BRについてのESDについて理解を深めた。講演1の信州大学の水谷氏による「エコパーク×ESD：人と自然が共生する持続可能な社会づくり」では、ユネスコエコパークには地域の発展と世界のネットワークとの連携が期待されておりSDGs達成のモデル地域でもあること、ESDはユネスコエコパークがその機能を発揮するための活動を推進するエンジンであることなどが解説された。講演2は立教大学の阿部氏による「ESD

×地方創生：学校からひろがる・つながる地域づくり」として、多くの課題をもつ日本では持続可能な社会のためにESDによる地域創生が必要であり、それは市民力の育成でもあると各地の事例を紹介され、学校を拠点として地域創生をおこなうべきと提案された。話題1は只見町ブナセンター長の斉藤氏により「エコパークにおける只見愛の育成とESDへの期待」として見えにくいESDを町民の日常文化に気づき、継続すること「只見愛」として展開したいと述べられた。話題2は「学校と地域が協働するESD for SDGs」として飯田市教委の田中氏と上村小学校長の村松氏により、小規模特認校として「小さな学校の世界につながる大きな教育」の特色ある教育実践が紹介された。話題3は飯田市公民館の片岡氏による「高校生講座：カンボジア・スタディツアーの取組」として海外研修により大きく成長する高校生の姿を紹介いただいた。その後4グループに分かれて「ユネスコエコパークの理念を活用したESD視点による地域づくり」を上記の講演と話題を素材に討論をおこない、さらなるあるべき姿の提案までおこなった。短時間ではあったがそれぞれに密度の濃い議論ができた。(渡辺隆一)

## 11月19日 山ノ内町子ども議会が開催されました

山ノ内町の小学6年生が、町の課題や改善提案などについて質問や提言を行う「子ども議会」が町役場の議場で開かれました。今年で4回目となる子ども議会では、町内の3小学校から集まった4学級91名の児童が、総合的な学習の時間を中心に展開されている地域学習の中で考えた地域振興策などについて、学級ごとに一般質問形式で質問・提案しました。



とくに実際の体験にもとづく提案からは、本やインターネットだけを使った調べ学習からはおそらく生まれることのない、本気の熱量を感じました。子ども議会は山ノ内町以外の自治体でも行われています。もともとは地方自治への理解と関心を高めることを目的に始まったと言われてはいますが、日頃の地域学習からの気づきや考察を深める良い機会であると同時に、市民・主権者教育としても意義深い取り組みです。山ノ内町の子ども議会ではこれまでのところ、子どもたちの提案が直接、町の事業に反映された例はないようですが、もし子どもたちの提案を議会や行政が受け止め、協働して取り組むような事業が実現できれば、「持続可能な社会の創り手」を育てる上でも大きな推進力になるでしょう。(水谷瑞希)

## 11月30日 ユネスコスクール全国大会に参加しました

広島県福山市立大学にて『第11回ユネスコスクール全国大会／持続可能な開発のための教育(ESD)研究大会』が開催され、全国からユネスコスクールの教員やESDに関心をもつ学校関係者、ESD関連の諸団体(大学・企業・NPO等)が集まりました。信州ESDコンソーシアムから12名の教職員を派遣し、昨年の事業紹介パネルも展示しました。前宮城教育大学長の見上一幸氏による基調提案「ESD 学校教育における実践の展望」をはじめ、広島県教育委員会教育長の平川理恵氏による特別講演「ユネスコの理念とESD」、ランチオンセッションでは、企業によるESD支援のプレゼンが行われ、午後からは12のテーマ別分科会に具体的な事例に基づいて学び合いました。第8分科会「平和のための学び ESD for SDGs～持続可能な社会づくりに向けて育む力～」では、本コンソーシアムの加盟校である長野県立中野西高等学校の実践発表もありました。全国から集まった参加者との交流を通して新たな気づきや繋がりや生まれた場となりました。(安達仁美)



以下は参加者の報告書の「得られた成果と今後の取り組み」からの抜粋です。

○見上先生のESDについての基調提案は、新しい学習指導要領での位置づけや、各校でESDをどのように捉えて実施していけばよいのかなど、わかりやすくお話していただけました。特に、実施上の負担感や不安を理解してお話でしたので、心に入っていました。たくさんの参加者から情報を得ることができ、自分がイメージしていたESDの理解の浅さに気づきました。

○基調講演・特別講演の中から得られた実践の意義というものを、教員間で再共有し、質を向上させることが必要だと感じた。教科横断的な「総合的な探究」を充実し、学んだことを考え、行動し、活用する力を育成したい。

○中高校生によるパネルディスカッションは見応えがあり、感動した。ワールドピースゲームの学び方もとより、資質・能力の育成の考え方は大いに参考になった。

○教師自身が世界で起きている出来事を「自分事」として捉え、その状況を変えるために行動しているか、ということをお問われた。子どもたちの学びと同時に、私たちも学び続け行動を起こし、世界を変える一員である意識をもつ必要がある。

○今後の学校教育で、世界とのつながりを意識した「持続可能な開発のための教育」は必須であることを感じ

た。ESDにつなげられないからと短絡的に「できない」で終わらせないよう、「できない」からスタートしたい。

○民主的に話し合う練習を学校で担保する、それがESDであり学校教育である。

○「ユネスコ理念」、「SDGs」、「ESD」について研修が必要であり、その必要感をどう醸成するか思案している現状がある。合科的な学習を実現させるカリキュラムマネジメントについて、校務分掌上の研究グループを立ち上げ、ESD実践の中核としたい。

○教育活動を「持続可能性」という視点から捉え直し、「やらされる」から自ら「やりたい」へ変容していくために、感動のある実体験があり、何のために学び、どう生きるか、社会に貢献するかについて「ESDの質の向上」をはかっていくことが大切である。

○先生方が主体的になれるコミュニケーションづくり、職員室づくり、チームづくり、ESDが具体的行動になっていくための研修を行っていきたい。

○地域の課題も取り込んだ形でのSDGs+αという考え方は新しい視点だった。信州ESDコンソーシアムには県内のユネスコスクールをつなぐ役割を期待している。

## 12月4日 山ノ内西小学校の子どもたちがリンゴの販売をおこないました



地獄谷野猿公苑に近い上林のcafe ENZA店頭で、山ノ内町西小学校の3年生25名が、自分たちが育てたリンゴの販売を行いました。場所柄、やってくるお客さんはほとんどが訪日外国人観光客。子どもたちの「外国から来た観光客に、自分たちが育てたリンゴを売ってみたい!」という思いから始まったこの取り組みは、今年で4回目になります。子どもたちは、英語のポップや呼びかけをALTの先生の協力を得ながら準備し、対面販売にのぞみました。子どもたちはアメリカ、オーストラリア、マレーシアなど様々な国から訪れた外国人観光客を相手に、果敢に自分たちが育てたリンゴをPRしていました。子どもたちの物怖じせず、積極的に英語でコミュニケーションを取ろうとする姿に、カリフォルニアの教員の女性は"Wonderful!"と感心していました。

(水谷瑞希)

SDGs  
ニュース

軽井沢で開催された、先の飯田市での「ESD推進のダイアログ」で挨拶に立った市長の胸には特産の水引が付けられてあり、後ほどそれがSDGsの17色で構成され、先のG20環境閣僚会議で提供されたものであることが紹介された。SDGsの17色のシンボルバッジは今やかなり流行ともなったがこの水引のように様々な場面でSDGsのシンボルが広がってさらに活用されていくことが期待される。



信州ESD通信

No.30 2019.12.10

発行：信州ESDコンソーシアム事務局 編集：渡辺隆一  
〒380-8544 長野市西長野6 信州大学教育学部

事務局：清水・高橋 TEL026-238-4034 kyoesh@shinshu-u.ac.jp